

英語学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
英語学概論	英語統語論入門Ⅰ	2	島 越郎	3	水	5	1
英語学概論	英語統語論入門Ⅱ	2	島 越郎	4	水	5	2
英語学各論	形態論入門Ⅰ	2	島 越郎	5	火	2	3
英語学各論	統辞構造の外在化	2	土橋 善仁	集中(5)			4
英語解析学各論	形態論入門Ⅱ	2	島 越郎	6	火	2	5
英語学講読	英語学の基本的思考 法Ⅰ	2	金子 義明	5	火	4	6
英語学講読	英語学の基本的思考 法Ⅱ	2	金子 義明	6	火	4	7
英語学演習	英語学の諸問題研究 Ⅰ	2	島 越郎, 金子 義明	7	水	2	8
英語学演習	英語学の諸問題研究Ⅱ	2	島 越郎, 金子 義明	8	水	2	9
英語学演習	英語統語論:極小主義 によるアプローチⅠ	2	金子 義明	5	金	2	10
英語学演習	英語統語論:極小主義 によるアプローチⅡ	2	金子 義明	6	金	2	11

科目名：英語学概論／ English Linguistics (General Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：島 越郎 (教授)

講義コード：LB33501, **科目ナンバリング：**LHM-LIN201J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

英語統語論入門 I

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to English Syntax I

3. 授業の目的と概要：

英語の音声と文法に関する基本的現象が現代言語学の観点からどのように分析されるのを解説し、英語学における基本概念や論証の仕方を理解してもらう。また、英語の歴史的変遷や他の言語との違いを解説することにより、英語という言語の普遍性と特殊性を理解してもらう。

4. 学習の到達目標：

- 1) 英語の音声の基本的特徴を理解する。
- 2) 英語の文法の基本的特徴を理解する。
- 3) 英語の歴史的変遷と他の言語との共通点・相違点を理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回：導入
第2回：英語の普遍性と特殊性
第3回：現代言語学における3つの分野：音韻論 意味論 統語論
第4回：英語音声の基本的特徴
第5回：英語の綴り字と発音
第6回：英語のリズムとイントネーション
第7回：文をつくる規則：句構造規則
第8回：句構造規則と文法
第9回：構成素について
第10回：樹形図と構造関係
第11回：構造関係に基づく文法原理
第12回：文、樹形図、文法原理の関係
第13回：品詞と歴史的変化
第14回：語彙と意味の歴史的変化
第15回：まとめと期末試験

6. 成績評価方法：

副読本の内容確認テストと期末テストの合計点

7. 教科書および参考書：

毎回、講義内容に関するプリントを配布する。

参考書

江川泰一郎著『英文法解説』金子書房

服部範子著『入門英語音声学』研究社

堀田隆一著『英語の「なぜ？」に答えるはじめての英語史』研究社

8. 授業時間外学習：

講義内容の十分な復習に心がけること。

副読本の内容を計画的に自己学習すること。

9. その他：

科目名：英語学概論／ English Linguistics (General Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 5 講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：島 越郎 (教授)

講義コード：LB43501, **科目ナンバリング：**LHM-LIN201J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

英語統語論入門 II

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to English Syntax II

3. 授業の目的と概要：

英語の音声と文法に関する基本的現象が現代言語学の観点からどのように分析されるのを解説し、英語学における基本概念や論証の仕方を理解してもらう。また、英語の歴史の変遷や他の言語との違いを解説することにより、英語という言語の普遍性と特殊性を理解してもらう。

4. 学習の到達目標：

- 1) 英語の音声の基本的特徴を理解する。
- 2) 英語の文法の基本的特徴を理解する。
- 3) 英語の歴史の変遷と他の言語との共通点・相違点を理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：導入

第2回：単語の音声・意味情報を記載するレキシコン

第3回：音韻・意味素性、主要部、句について

第4回：動詞と目的語の語順：音韻的要因と歴史的变化

第5回：動詞と修飾語の語順：音韻的要因と歴史的变化

第6回：複文の構造（1）：補文標識の役割 小テスト1

第7回：複文の構造（2）：定形節と非定形節の違い

第8回：複文構造の歴史的变化

第9回：発音されない代名詞と歴史的变化

第10回：名詞句の構造と歴史的变化

第11回：句構造規則からXバー理論へ 小テスト2

第12回：Wh 疑問文における移動操作

第13回：Wh 疑問文の音韻的特徴と歴史的变化

第14回：英語とその他の言語に見られる Wh 疑問文の共通点・相違点

第15回：まとめと期末試験

6. 成績評価方法：

副読本の内容確認テストと期末テストの合計点

7. 教科書および参考書：

毎回、講義内容に関するプリントを配布する。

参考書

江川泰一郎著『英文法解説』金子書房

服部範子著『入門英語音声学』研究社

堀田隆一著『英語の「なぜ？」に答えるはじめての英語史』研究社

8. 授業時間外学習：

講義内容の十分な復習に心がけること。

副読本の内容を計画的に自己学習すること。

9. その他：

科目名：英語学各論／ English Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 2講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：島 越郎 (教授)

講義コード：LB52203, **科目ナンバリング：**LHM-LIN301J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

形態論入門 I

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to Morphology

3. 授業の目的と概要：

英語やその他の言語に見られる単語の基本的な形態現象を形態論の観点からどのように分析されるのかを解説する。今年度は、Level Ordering、語の構成素構造、複合語(Compounds)、Bracketing Paradoxes、等々の問題について考察する。

4. 学習の到達目標：

- 1) 単語の基本的な形態現象を理解する。
- 2) 形態論の基本概念を理解する。
- 3) 形態論の基本的分析法を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：序論

第2回：Siegel の Level Ordering 仮説

第3回：Level Ordering 仮説の問題

第4回：語の構成素構造

第5回：Williams (1981) の Righthand Head Rule

第6回：Righthand Head Rule の例外

第7回：二種類の複合語：主要複合語と総合的複合語

第8回：英語における総合的複合語

第9回：総合的複合語に関する語彙的分析

第10回：総合的複合語に関する統語的分析

第11回：Bracketing Paradoxes

第12回：Bracketing Paradoxes に関する分析：Williams の Lexical Relatedness

第13回：Bracketing Paradoxes に関する分析：Sproat の Mapping Principle

第14回：Bracketing Paradoxes に関する分析：Paradigmatic Word Formation

第15回：まとめ

6. 成績評価方法：

学期末レポートに基づく。

7. 教科書および参考書：

毎回、講義内容に関するプリントを配布する。

大石強著『形態論』開拓社

8. 授業時間外学習：

毎回の授業の復習をしっかりとやること

9. その他：

科目名：英語学各論／ English Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

セメスター：集中(5), 単位数：2

担当教員：土橋 善仁 (非常勤講師)

講義コード：LB98812, **科目ナンバリング：**LHM-LIN301J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

統辞構造の外在化

2. Course Title (授業題目)：

Externalization of Syntactic Structures

3. 授業の目的と概要：

本講義では、特に韻律的現象の領域の決定メカニズムに着目し、外在化プロセスの理論の近年の発展を学び、この分野の現在の諸課題を理解することを目的とする。

4. 学習の到達目標：

受講生が、この授業を通して統辞・音韻インターフェイスにおける諸課題を理解し、マッチ理論やフェイズ理論などの主要な理論のもと基本的な韻律現象を分析できるようになることが到達目標である。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 統辞構造の外在化をめぐる諸問題の概観
2. 韻律現象と階層性
3. 「標準理論」(1)：統辞構造関係と韻律領域
4. 「標準理論」(2)：句構造の端と韻律領域
5. 最適性理論と韻律領域
6. 機能範疇と韻律領域
7. 句構造のラベルと韻律領域
8. フェイズ理論と音韻句形成
9. フェイズ理論と韻律階層
10. マッチ理論
11. 情報構造と韻律領域
12. 統辞現象と韻律現象
13. 統辞対象物の音韻的解釈
14. 派生の終了と韻律領域
15. まとめと今後の課題

6. 成績評価方法：

出席状況や課題レポートを総合的に評価する。

7. 教科書および参考書：

使用するテキストはプリントで配布する。参考書は必要に応じて適宜紹介する。

8. 授業時間外学習：

到達目標や授業内容に応じた準備学習が求められる。

9. その他：

質問は随時受け付ける。(特に授業終了後)

科目名：英語解析学各論／ Analytical Study of English (Special Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：島 越郎（教授）

講義コード：LB62203, **科目ナンバリング：**LHM-LIN302J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

形態論入門 II

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to Morphology II

3. 授業の目的と概要：

英語やその他の言語に見られる単語の基本的な形態現象を形態論の観点からどのように分析されるのかを解説する。今年度は、受動態、中間態、使役交替などについて考察する。

4. 学習の到達目標：

- 1) 単語の基本的な形態現象を理解する。
- 2) 形態論の基本概念を理解する。
- 3) 形態論の基本的分析法を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：序論

第2回：受動態 (1)：Analytic Passive と Synthetic Passive

第3回：受動態 (2)：Impersonal Passive と Pseudo Passive

第4回：受動態 (3)：Reflexive Passive

第5回：中間態

第6回：使役と反使役

第7回：適用態

第8回：反受動態

第9回：編入

第10回：格と意味役割

第11回：非対格仮説

第12回：Marantz の形態素に基づく分析

第13回：反使役と中間態の相違点

第14回：形容詞的受動文

第15回：まとめ

6. 成績評価方法：

学期末レポートに基づく。

7. 教科書および参考書：

毎回、講義内容に関するプリントを配布する。

大石強著『形態論』開拓社

8. 授業時間外学習：

毎回の授業の復習をしっかりとやること

9. その他：

科目名：英語学講読／ English Linguistics (Reading)

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：金子 義明 (教授)

講義コード：LB52404, **科目ナンバリング：**LHM-LIN309J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

英語学の基本的思考法 I

2. Course Title (授業題目)：

Fundamental Perspectives in English Linguistics I

3. 授業の目的と概要：

英語学関連の英語文献の講読を通して、英語文献の正確な読解法を学ぶとともに、英語学の基本的な方法論の理解をめざす。

4. 学習の到達目標：

- ①英語学の基盤を成す思考法や研究方法論が身につく
- ②批判的英文読解法が身に付く

5. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業は担当者による講読発表とディスカッションから構成される。内容とスケジュールは以下の通りである。

- 1 ガイダンス
- 2 Defining conditionals
- 3 The position of merger of the if-clause
- 4 Clause-internal syntax of the if-clause
- 5 Then as a correlative proform
- 6 Structure for conditionals with then
- 7 Some apparent problems for the conditional-correlative link
- 8 Relevance conditionals
- 9 Factual conditionals
- 10 Stacking if-clauses of different types
- 11 Adnominal conditionals
- 12 Reduced conditional
- 13 Chinese bare conditionals
- 14 Other topics of conditionals
- 15 まとめとディスカッション

6. 成績評価方法：

授業における発表と討論参加 [40%] と期末レポート [60%]

7. 教科書および参考書：

テキスト：Rajesh Bhatt and Roumyana Pancheva (2017) "Conditionals," in The Wiley Blackwell Companion to Syntax, ed. by Martin Everaert and Henk C. van Riemsdijk, pp. 1079-1126.

参考書：原口庄輔・中村敏・金子義明 (編)『〈増補版〉チョムスキー理論辞典』研究社

8. 授業時間外学習：

事前に該当箇所を予習し、問題意識をもって授業に臨むこと (2 時間)。授業後は、内容を確認し、参考書等を活用して問題点を解消しておくこと (2 時間)。

9. その他：

科目名：英語学講読／ English Linguistics (Reading)

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：金子 義明 (教授)

講義コード：LB62405, **科目ナンバリング：**LHM-LIN309J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

英語学の基本的思考法Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：

Fundamental Perspectives in English Linguistics II

3. 授業の目的と概要：

英語学関連の英語文献の講読を通して、英語文献の正確な読解法を学ぶとともに、英語学の基本的な方法論の理解をめざす。

4. 学習の到達目標：

- ①英語学の基盤を成す思考法や研究方法論が身につく
- ②批判的英文読解法が身に付く

5. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業は担当者による講読発表とディスカッションから構成される。内容とスケジュールは以下の通りである。

- 1 ガイダンス
- 2 Introduction
- 3 Structure of double object constructions: Overview
- 4 Flat structures
- 5 VP shell structures
- 6 Small clause structures
- 7 Applicative structures
- 8 Transformational versus lexicalist approaches
- 9 Dative shift: Overview
- 10 Status of "promoted" object
- 11 Productivity
- 12 Meaning differences
- 13 Symmetric versus asymmetric passives
- 14 Other topics of double object constructions
- 15 まとめとディスカッション

6. 成績評価方法：

授業における発表と討論参加 [40%] と期末レポート [60%]

7. 教科書および参考書：

テキスト: Barbara Citko, Joseph Embley Emonds, and Rosemarie Whitney (2017) "Double Object Constructions," in The Wiley Blackwell Companion to Syntax, ed. by Martin Everaert and Henk C. van Riemsdijk, pp. 1365-1410.

参考書: 原口庄輔・中村捷・金子義明 (編) 『〈増補版〉チョムスキー理論辞典』研究社

8. 授業時間外学習：

事前に該当箇所を予習し、問題意識をもって授業に臨むこと (2 時間)。授業後は、内容を確認するとともに、参考書等を活用して疑問点を解消しておくこと (2 時間)。

9. その他：

科目名：英語学演習／ English Linguistics (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 2講時

セメスター：7, **単位数：**2

担当教員：島 越郎, 金子 義明 (教授)

講義コード：LB73201, **科目ナンバリング：**LHM-LIN310J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

英語学の諸問題研究 I

2. Course Title (授業題目)：

Topics in English Linguistics I

3. 授業の目的と概要：

英語学研究の最新の動向を把握し、卒業論文作成の進展に役立てることを目的とする。授業は次の3部から構成される。

- 1) 最新の研究論文を担当者がオーラル・レポートする。
- 2) 討論者がコメントを加える。
- 3) 授業の参加者全員でディスカッションを行う。

授業に参加する者は、前もって論文に目を通し、積極的にディスカッションに参加することが望まれる。

4. 学習の到達目標：

- ①英語学研究の最新動向を把握する
- ②研究論文の実践的作成法が身に付く
- ③効果的プレゼンテーション力が身に付く

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：導入

第2回：省略現象に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第3回：極性表現に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第4回：名詞表現に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第5回：数量詞に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第6回：名詞句内の省略に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第7回：受け身に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第8回：Tough 構文に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第9回：島の制約に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第10回：空項に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第11回：イベント項に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第12回：ラベル付けに関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第13回：省略と移動に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第14回：項構造に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第15回：まとめ

6. 成績評価方法：

期末レポート

7. 教科書および参考書：

取り上げる論文は英語学研究室ホームページで前もって通知する。参考文献・参考書は随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

取り上げる論文は英語学研究室ホームページで前もって通知するので、読んだ上で参加すること。

9. その他：

科目名：英語学演習／ English Linguistics (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

セメスター：8, **単位数：**2

担当教員：島 越郎, 金子 義明 (教授)

講義コード：LB83201, **科目ナンバリング：**LHM-LIN310J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

英語学の諸問題研究 II

2. Course Title (授業題目)：

Topics in English Linguistics II

3. 授業の目的と概要：

英語学研究の最新の動向を把握し、卒業論文作成の進展に役立てることを目的とする。授業は次の3部から構成される。

- 1) 最新の研究論文を担当者がオーラル・レポートする。
- 2) 討論者がコメントを加える。
- 3) 授業の参加者全員でディスカッションを行う。

授業に参加する者は、前もって論文に目を通し、積極的にディスカッションに参加することが望まれる。

4. 学習の到達目標：

- ①英語学研究の最新動向を把握する
- ②研究論文の実践的作成法が身に付く
- ③効果的プレゼンテーション力が身に付く

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：導入

第2回：省略現象に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第3回：極性表現に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第4回：名詞表現に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第5回：数量詞に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第6回：名詞句内の省略に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第7回：受け身に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第8回：Tough 構文に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第9回：島の制約に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第10回：空項に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第11回：イベント項に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第12回：ラベル付けに関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第13回：省略と移動に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第14回：項構造に関する英語学研究論文のオーラル・レポート

第15回：まとめ

6. 成績評価方法：

期末レポート

7. 教科書および参考書：

取り上げる論文は英語学研究室ホームページで前もって通知する。参考文献・参考書は随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

取り上げる論文は英語学研究室ホームページで前もって通知するので、読んだ上で参加すること。

9. その他：

科目名：英語学演習／ English Linguistics (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：金子 義明 (教授)

講義コード：LB55208, **科目ナンバリング：**LHM-LIN310J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

英語統語論：極小主義によるアプローチ I

2. Course Title (授業題目)：

English Syntax: A Minimalist Approach I

3. 授業の目的と概要：

生成文法の最新の枠組みである極小主義プログラムによる英語分析のテキストを用い、英語の種々の構文がどのような概念により分析されるのかを学ぶ。授業は担当者によるオーラル・レポートと、ディスカッションによってすすめる。

4. 学習の到達目標：

- ①生成文法理論による英語分析の概要を把握する。
- ②比較的多量の英文を正確に読みこなせるようになる。
- ③プレゼンテーションの実践的手順を把握する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

授業内容とスケジュールは以下の通りである。

1 ガイダンス

- 2 Grammar (1): Traditional Grammar (Oral report and discussion)
- 3 Grammar (2): Universal and Language Acquisition (Oral report and discussion)
- 4 Grammar (3): Parameters and Parameter Setting (Oral report and discussion)
- 5 Words (1): Lexical Categories and Functional Categories (Oral report and discussion)
- 6 Words (2): Determiners, Quantifiers, and Auxiliaries (Oral report and discussion)
- 7 Words (3): Categorization Problems and Grammatical Features (Oral report and discussion)
- 8 Structure (1): Phrases, Clauses, and Specifiers (Oral report and discussion)
- 9 Structure (2): Projections and Testing Structures (Oral report and discussion)
- 10 Structure (3): Structural Relations and Word Order (Oral Report and discussion)
- 11 Null Constituents (1): Null T in Indicative Clauses (Oral report and discussion)
- 12 Null Constituents (2): Null T and Null C in Finite Clauses (Oral report and discussion)
- 13 Null Constituents (3): Null C in Infinitive Clauses and Defective Clauses (Oral report and discussion)
- 14 Null Constituents (4): Null Heads in Nominals (Oral report and discussion)
- 15 まとめとディスカッション

6. 成績評価方法：

授業における発表および討論参加 (40%)

期末レポート (60%)

7. 教科書および参考書：

テキスト：Andrew Radford (2016) Analysing English Sentences, 2nd edition, Cambridge UP.

参考書：原口庄輔・中村捷・金子義明 (編)『増補版 チョムスキー理論辞典』研究社

8. 授業時間外学習：

授業に臨む前に、該当箇所を予習し口頭発表後のディスカッションに積極的に参加できるように準備しておくこと (2 時間)。

授業後は参考書等を活用し、授業内容を確認し疑問点を解消しておくこと (2 時間)。

9. その他：

前年度までに英語学概論を履修済みであることが望ましい。

科目名：英語学演習／ English Linguistics (Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：金子 義明 (教授)

講義コード：LB65206, **科目ナンバリング：**LHM-LIN310J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

英語統語論：極小主義によるアプローチ II

2. Course Title (授業題目)：

English Syntax: A Minimalist Approach II

3. 授業の目的と概要：

生成文法の最新の枠組みである極小主義プログラムによる英語分析のテキストを用い、英語の種々の構文がどのような概念により分析されるのかを学ぶ。授業は担当者によるオーラル・レポートと、ディスカッションによってすすめる。

4. 学習の到達目標：

- ①生成文法理論による英語分析の概要を把握する。
- ②比較的多量の英文を正確に読みこなせるようになる。
- ③プレゼンテーションの実践的手順を把握する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

授業内容とスケジュールは以下の通りである。

1 ガイダンス

2 Head Movement (1): Auxiliary Inversion and CP Recursion (Oral report and discussion)

3 Head Movement (2): Null Operators and V-to-T Movement (Oral report and discussion)

4 Head Movement (3): Auxiliary Raising and Negation (Oral report and discussion)

5 Head Movement (4): Do-support (Oral Report and discussion)

6 Wh-Movement (1): Wh-Movement and Driving Wh-Movement (Oral report and discussion)

7 Wh-Movement (2): Subject Questions and Pied-Piping (Oral report and discussion)

8 Wh-Movement (3): Wh-Movement as Copying (Oral report and discussion)

9 Wh-Movement (4): Constraint on movement (Oral report and discussion)

10 A-bar Movement (1): Wh-exclamatives and Relative clauses (Oral report and discussion)

11 A-bar Movement (2): Two movement accounts of restrictive relative clauses (Oral report and discussion)

12 A-bar Movement (3): Refining the Antecedent Raising analysis (Oral report and discussion)

13 A-bar Movement (4): Two sources for restrictive relative clauses (Oral report and discussion)

14 A-bar Movement (5): Other A-bar Movement constructions (Oral report and discussion)

15 まとめとディスカッション

6. 成績評価方法：

授業における発表および討論参加 (40%)

期末レポート (60%)

7. 教科書および参考書：

テキスト：Andrew Radford (2016) Analysing English Sentences, 2nd edition, Cambridge UP.

参考書：原口庄輔・中村捷・金子義明 (編)『増補版 チョムスキー理論辞典』研究社

8. 授業時間外学習：

授業に臨む前に、該当箇所を予習し口頭発表後のディスカッションに積極的に参加できるように準備しておくこと (2 時間)。

授業後は参考書等を活用し、授業内容を確認し疑問点を解消しておくこと (2 時間)。

9. その他：

前年度までに英語学概論を履修済みであることが望ましい。